

日時：2024年7月15日（月）17:00～19:00

実施方法：オンライン会議

日本パーソナリティ心理学会第158回常任理事会議事録

出席：尾見康博理事長，松田英子副理事長，小塩真司，森 津太子，田中麻未，
外山美樹，武田美亜，川本哲也，中村 真

報告事項

I. 理事長挨拶

II. 各種委員会報告

1. 機関誌編集委員会（小塩委員長）

(1) 機関誌掲載情報

第33巻1号 2024年7月発行予定（2024年4月末までに採択された論文）

原著5本，ショート6本（うち事前登録研究1篇）

※ 第157回常任理事会議事録の記載内容を再掲（再報告）

原著	Specific Phobia of Vomiting Inventory日本語版の因子構造，信頼性，妥当性の検討	米田 健一郎
原著	鮮明性測定尺度の視覚項目回答時に生じるイメージ体験の分類	福井 晴那
ショート	インターネット版プライバシー次元尺度改訂版の作成	佐藤 広英
ショート	向社会的な嘘が抑うつを高める過程における先行要因—非緩和共同性に着目した検討—	田口 恵也
原著	特定少年実名報道と原因帰属の相互メカニズム——個人化論の観点から——	向井 智哉
ショート	中学生における関係性攻撃と学校適応感の関連：学級内地位の調整効果に注目して	唐 音啓
事前登録研究（ショートレポート）	事前登録研究：同時呈示式係留ビネット法の提案——ビネット中の人物への不適当評定を減らす試み——	清水 友貴
原著	小学校高学年児童および中学生版自己注目尺度の作成	原田 宗忠
ショート	大学生のライフイベントと精神的健康における感覚処理感受性の調整効果の検討	嶺 哲也
原著	Dark Tetradと孤独感の関連—排除経験を媒介変数として—	富井 蘭
ショート	日本語版教師用子どものネガティブ感情への対応尺度（CCNES-T）作成の試み	溝川 藍

第33巻2号 2024年11月発行予定（2024年8月末までに採択された論文）

第33巻2号		
ショート	メンタライジングによる抑うつ・不安の低減効果——アイデンティティを媒介変数としたモデル検討——	柴田 康順
ショート	中学生の過剰適応と自律性の欲求充足及び欲求不満の関連	風間 惇希
原著	刑事司法に対する態度と経済的不安の関連	向井 智哉
ショート	日本語版仕事の先延ばし尺度の作成	黒住 嶺

※ 第157回常任理事会議事録の記載内容に追記（その後，採択された論文を追記）

※ 上記の4本の他に，ショートレポート1本の掲載が決まった旨の報告があった。

(2) 投稿規定ワーキンググループ

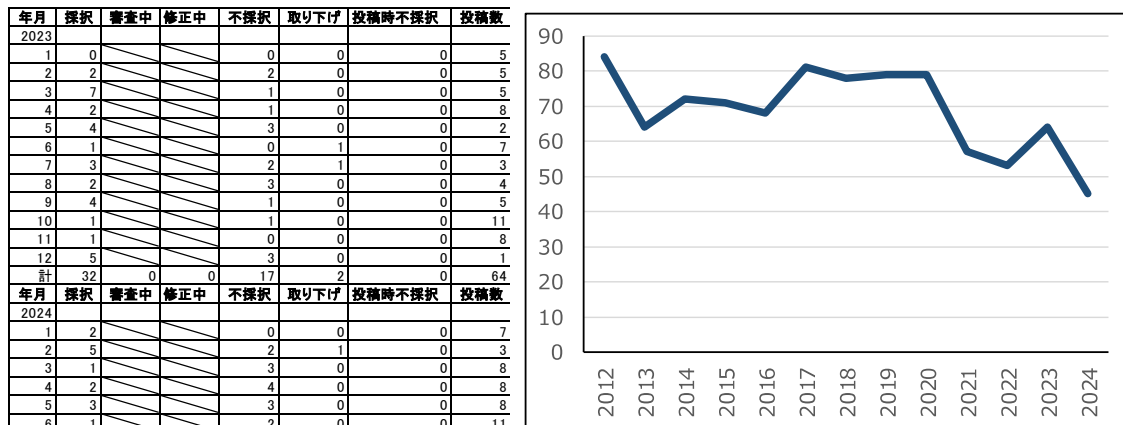
メンバー：永井智，岡田涼，古村健太郎，下司忠太，中井大介（編集委員会副委員長）

2024年6月9日に第2回WGを開催

投稿規定の変更について継続検討中であるとの報告があった。

(3) 編集状況

投稿状況は、以下の図表に記載の通りであり、例年に比べて投稿数が増加傾向、不採択も微増傾向である旨の報告があった。



2 経常的研究交流委員会（森委員長）

(1)第 33 回大会の企画について

以下の通り、報告があった。

- ・企画シンポジウム 10月5日（土）13時30分～15時30分
『ソーシャルメディア時代 –パーソナリティ研究から何が言えるか–』
<話題提供>
太幡直也先生（愛知学院大学）、鈴木千晴先生（立命館大学）、
黒川雅幸先生（愛知教育大学）
<指定討論>
中山満子先生（奈良女子大学）
- ・MPP企画 10月6日（日）11時30分～12時30分
『これくらいでいいんじゃない？ –心理学の授業の進め方–』
- ・招待講演 ※本年度は見送り

(2)委員構成について

委員構成について報告があった(第157回常任理事会議事録に記載されたものと同内容)

3 広報委員会（川本委員長）

(1)定例の活動（2024/5/31 から 2024/7/12 まで）

ウェブサイトの更新（2回）、メールニュースの配信（10回）、ML上での業務調整などの活動内容が報告された。

(2)メールニュース配信システムの移行

7/12 18時より、Cuenote を利用してのメールニュース配信システムを JPASS を利用してのメールニュース配信に移行したこと、移行に伴い、7/11～7/15 はメールニュース配信停止、7/16 に広報委員会よりテストメールを配信する旨の報告があった。

(3) ヤングサイコロジストプログラム (YPP) 2024

第 33 回大会前日の 10 月 4 日 (金) 14:30~17:45 に筑波大学にて開催すること、プログラム内容が確定したこと、案内ポスターの校了と HP への掲載について報告があった。

(4) 今後の活動予定 (継続を含む)

ウェブサイトの更新、メールニュースの配信 (随時)、委員分担コンテンツの更新を行っていくことが報告された。

4 褒賞関連事項 (外山褒賞担当常任理事)

(1) 学会賞選考について

理事からの推薦に基づき、学会賞選考委員会による第 1 次選考を行い、受賞論文の推薦があった。常任理事会において第 2 次審査を行った結果、受賞論文を以下の通り決定した。

< 詫摩武俊賞 (優秀論文賞) >

解良優基 著

「親子間における知能観の伝達——父親と母親の知能観の一致に着目して」 第 32 巻 第 1 号

< 奨励論文賞 >

上田阜介・山形伸二 著

「事前登録研究：自己呈示の内在化に自己呈示は必要か——自己欺瞞による代替説明可能性の検討」 第 32 巻 第 1 号

(2) 優秀大会発表賞について

抄録原稿を対象に、理事による第 1 次選考を行い、優秀大会発表賞の候補者が決まったこと、大会 2 日目の 10 月 6 日 (日) 10:20~12:20 に候補者による発表を行い、大会参加者による投票で第 2 次審査を行う旨の報告があった。また、受賞者の発表は、常任理事会の承認を得たうえで、後日、メールニュース等で行うことを申し合わせた。

今後の優秀大会発表賞のあり方については、継続審議することを申し合わせた。

III 第 33 回大会の準備状況 (外山準備委員長)

現時点での大会参加者が 197 名、7/12 に大会プログラムを公開したとの報告があった。

IV 日本心理学諸学会連合 (尾見理事長)

第 5 期役員選挙の結果、尾見理事長が、理事に就任 (事務局長) したこと、心理学検定を大学院入試に活用して欲しいとの依頼があった旨の報告があった。

審議事項

I 日本学術振興会「育志賞」の受賞候補者の選考方法について

松田副理事長より、今年度の第 15 回「育志賞」の選考過程について報告があった。また、本学会から推薦する来年度以降の「育志賞」の受賞候補者の選考方法について、基本方針

(案) が示され、審議の結果、承認された。今後、細部を詰めていくことを申し合わせた。

II 財務関連事項（武田財務担当常任理事）

武田財務担当常任理事より、2024年度予算書の修正案が提示され、審議の結果、承認された。継続検討中の来年度以降の監査については、引き続き、監査のあり方と内容を継続審議とする旨を申し合わせた。

III 会員の入退会に関する件（田中事務局長）

田中事務局長より、別紙資料に基づき、入会希望者 12 名（うち、5 名は ML 審議にて承認済み）、退会者 2 名が示され、審議の結果、承認された。また、入会承認後に入会を辞退した 1 名について、入会辞退を追認した（ML 審議にて承認済み）。併せて、宛先不明者について報告があった。

以上の承認を受けて、2024年7月10日現在、会員総数は 906 名である（今回、新規に入会が承認された 7 名は含まれない）。内訳は、一般会員 834 名、院生会員 56 名、学生会員 2 名、名誉会員 10 名、賛助会員 4 名である。

IV 次回常任理事会の日程について

実施方法：対面開催

日時：2024年8月26日（月）14:00～

場所：早稲田大学戸山キャンパス 33 号館 7 階 702 室
（文化構想学部現代人間論系カンファレンス室）

以上